

多久 議会だより



令和2年
9月定例会
第46号



意見書	P2
議案質疑	P3
委員会審査報告	P4~7
一般質問	P8~11
まちで発見!	P12

令和2年度 決算特別委員会審査報告

～多久の全てを記した「丹邱邑誌」の著者～

『 深江 順房 』

明和8年(1771年)～弘化5年(1848年)



今回は、多久家第九代領主茂鄰・十代領主茂澄・十一代領主茂族の三代に亘って仕え、佐賀を代表する学者であり文化人の「草場佩川」とも親交があった「深江順房」を紹介します。

深江家は初代多久領主多久安順の長庶子茂順を始祖とする家系で祖父順正の時代に深江姓を名乗りました。彼は多久家の上級家臣であり、東原彦舎に学び、東原彦舎句読師となり、十一代領主茂族の命により佐賀藩弘道館で学び、その後弘道館の監察に任じられました。1803年帰郷して東原彦舎教授となり1805年には東原彦舎大監察官を務めました。

深江順房は当時の学者としては珍しく、詩文を遺しておらず、その探究心はもっぱら郷土である多久領に向けられ、「丹邱邑誌」の編纂では長期に亘る精密な調査や、膨大な資料の蒐集を独自に行い、多久領の地理、歴史、社寺、租税、産業などを総集した精密かつ実証的地誌を作り上げました。



草場佩川に命じて編集した「多久諸家系図」全7巻

「丹邱邑誌」を編纂する為に集めた基礎資料や調査記録は、分厚い綴りの小横帳で「聞書」1冊、「雑記」9冊にびっしりと書かれています。また、その用紙は寺社の守り札の裏紙を切りそろえて綴じてあり、合理主義であったことが感じられます。



「丹邱邑誌」

「丹邱邑誌」を編纂した後も、亡くなる直前まで修正、補注を続けられました。



「雑記」堀屋ふみの手紙(部分)



順房の墓

弘化5年1月10日に78歳で没し、南多久町長尾の福聚寺に葬られています。

—参考文献—
「佐賀県人名辞典」、「旧多久邑人物小志」、細川章校訂「丹邱邑誌」

UDFONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルサインフォント
を採用しています。



環境に優しい植物油
インキを使用しています。

委員	委員長	議会広報委員会
香月 野北	榊島 永二郎	
正則 悟		
委員	副委員長	
鷺崎 田淵	古賀 公彦	
義彦 厚		

「議会報告会」のお知らせ!

多久市議会では、議会基本条例に基づき「議会報告会」を毎年開催しておりますが、今年は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、各町公民館での報告会は行わず、今回初の試みとして **多久ケーブルメディア** と **YouTube** を使って報告を行います。

- **多久ケーブルメディアの放送日時**
11月19日(木)～21日(土)7:00/11:00/15:00/19:00/23:00
- **YouTube** 12月1日公開予定

